



図1：リング状星雲（M57）. 明るいリングを犠牲にして、淡いハローの構造がよく見えるように表示したH α バンド画像.



図2：H α ，B，Vバンド画像に最大エントロピー法処理を施した後、合成してカラー表示した画像.

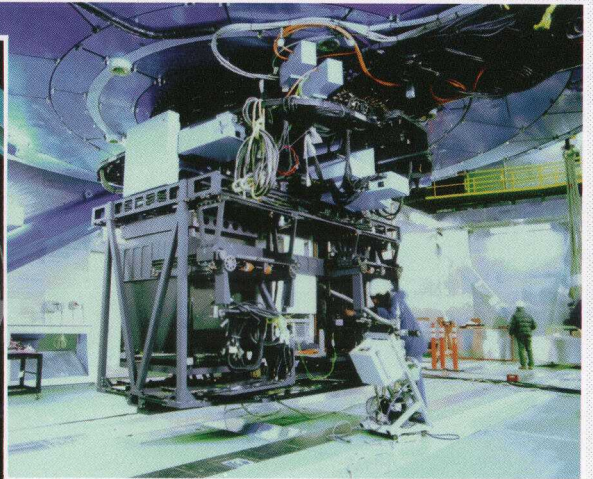
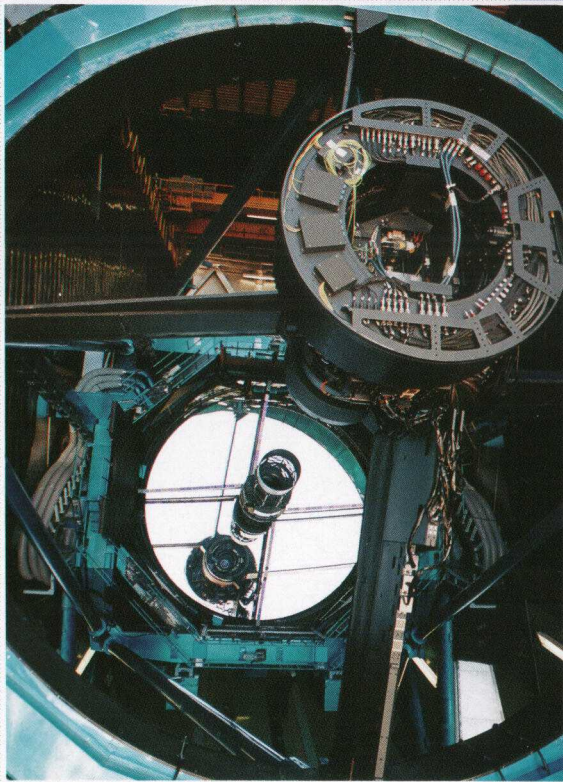


図4：ファーストライトと試験観測に用いられたカセグレン焦点装置自動交換システム CIAX-3。3つの小観測装置を搭載し、容易に交換できる。CISCO, Suprime-Cam, 高感度ハイビジョンカラーカメラを搭載し夜間観測に備えてテスト中の状況。

図3：筒頂から見た主鏡。右上手前はすばる主焦点カメラを搭載した主焦点ユニット。



図5：すばる望遠鏡全景

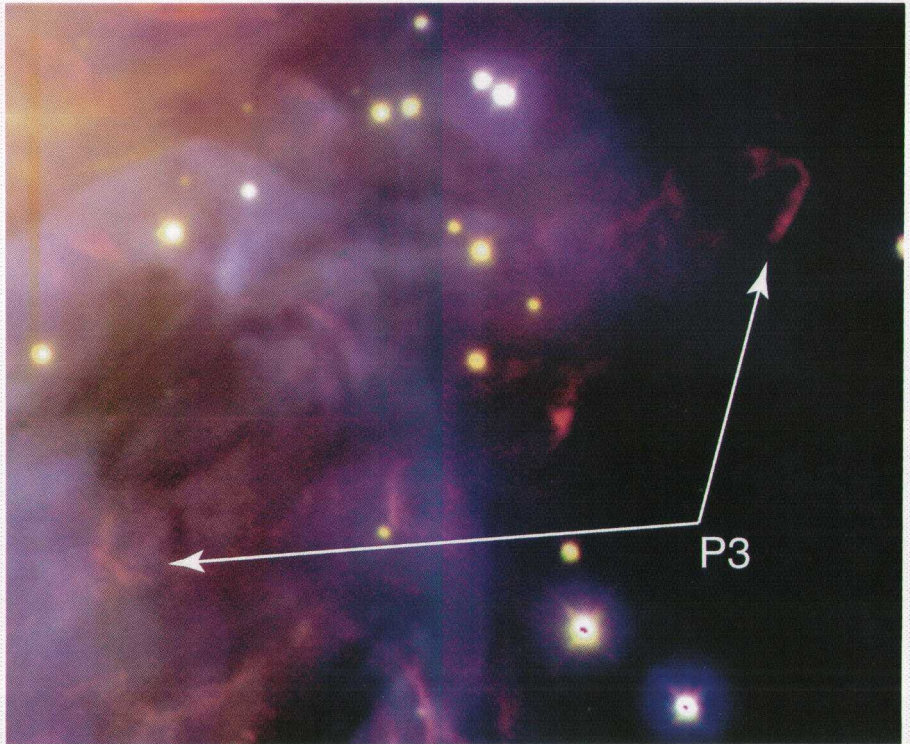


図6：オリオン星雲内で見いだされた星形成関連天体の一つ。水素分子輝線（赤色）が示す一対のU字型構造（P3）で、原始星がドライブする双極星雲であろう。場所はIRc2から約1分南西、対構造の相対角距離は54秒。中央に原始星候補と思われる赤い天体が見える。

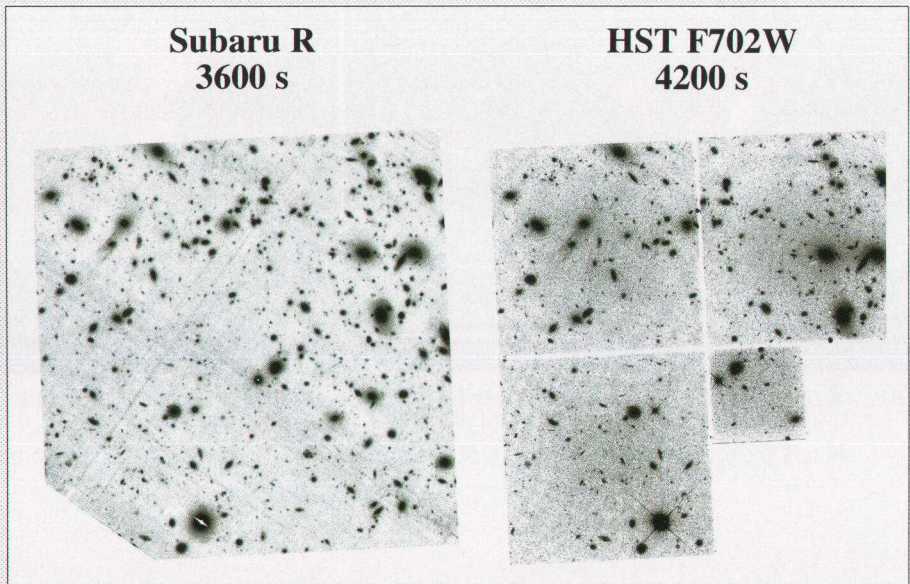


図7 すばる望遠鏡（左）とハッブル宇宙望遠鏡（右）の性能比較

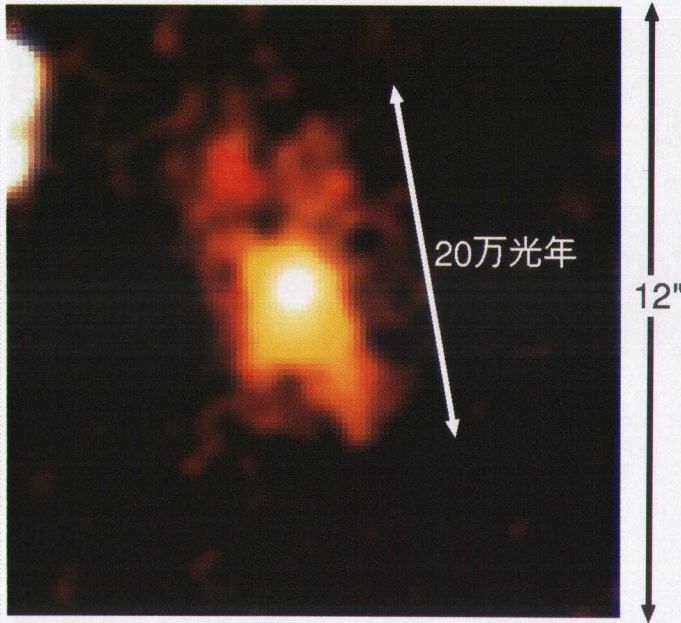


図8：B3 0731 + 438 の連続光を青，水素のバルマー輝線を赤で表した擬似カラー画像．赤く見えているところが水素輝線の相対強度が強い領域である．画像の一辺は12秒角．

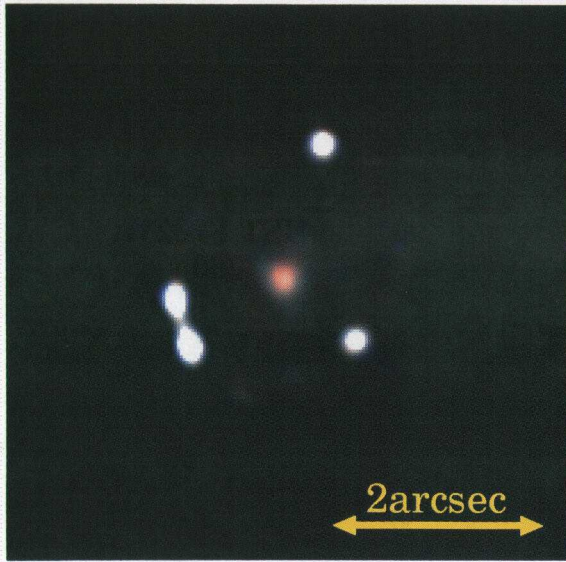


図9：重力レンズ天体 PG 1115+080 の赤外線イメージ．中央の銀河がレンズとなっている銀河で，同一視線にある後方のクエーサが4つに分裂して見えている．



図10：中央の銀河と4つのクエーサ成分を引いた後の残りの成分．クエーサに属する広がった銀河の成分が“C”形に引き延ばされて見えている．